

岐阜県家庭教育学級実践事例報告書

体験活動参加型（子育て支援センター）

学 校 名 等	瑞浪市子育て支援センター愛モア
実 施 日 時	令和7年1月24日（金）
会 場	瑞浪市立みどり幼稚園 子育て支援センター愛モア 遊戯室
参 加 人 数	12組の親子
学習課題（分野）	親子体操 ～親子でレッツトライ！～ （基本的な生活習慣）
運営者の願い	・親子で体操に取り組み、初めて行う動きのときなどの子どもの様子を 知り、体を動かす楽しさを味わう。 ・親子でスキンシップをたくさん行い、体操を通して健全な愛着環境を整 え、親子の絆をより深いものにする。

学 習 の 内 容

<親子のふれあい>

瑞浪市子育て支援センター愛モアは、就学前のお子さんとその保護者が集まり、地域の交流や情報公開、子どもたちのふれあいなど安心安全に活動できる施設です。今回は、「親子体操～親子でレッツトライ～」として、オハナ体操教室の小池久司先生をお招きして親子体操教室を開催しました。



小池先生は人形をモデルにして、体操の仕方を伝えました

<講師の先生に質問>

☆「6カ月の子が運動できるんでしょうか。」
「無理は禁物、安全第一です。どこまでやってよいか。様子を見ながらやっています。今日は、音楽にのったリズム遊びや、ボール遊びも用意しています。」とのことでした。参加親子の様子をよく見ながら体操メニューを進めてみえることがわかりました。

☆「どんなところに気をつけるとよいですか。」
子どもにとって、初めて体験する動きのときがチャンスです。「どうですか。お子さんの様子は、怖がったりしていませんか。」とお母さんが子どもの表情や体に入る力加減を観察することを促すようにしています。そこで、お子さんが喜んでいるのか、怖がっているのかを感じ取ってもらい、次の運動につなげていくようにしています。

お母さんたちには、運動を通して子どもをよく観察してほしいと思います。



子どもの目をよく見て、一緒に体操する参加親子

<参加者の感想紹介>

「家ではなかなかできない運動ができてよかったです。音楽に乗って、体を動かすことを楽しんでいました。同じぐらいの年齢の子と接することができたのもよかったです。」
「子どもは楽しそうに反応していました。愛モアさんは、日頃からよく利用しています。今日の体操でも、ここで一緒になる方もみえてよかったです。」
「昨年もこの親子体操に参加しました。ふだん運動の機会がないから、やってみて、こんな動きもできるんだなと思いました。子どももののびのび楽しそうにやっていたので、今年も申し込みました。」



別紙様式1

体を動かす楽しさを味わう

2024年「全国体力テスト」の結果が公表され、コロナ禍で落ち込んだ数値は、ゆるやかに回復傾向を示しました。その中、小学生女子の体力合計点が過去最低を更新しました。種目別では「握力」「持久力」の低下傾向が続いています。この体操教室のように、自分の体は自分で支える力をつけるなどは大切な活動です。また、親子で体を動かす喜びを味わうことは、質の高い愛着形成につながります。



子どもの様子を観察する力

「こんな体勢、うちの子大丈夫かしら？」と思うこともあるかもしれません。そんなときに、子どもの表情や体の力の入り具合を敏感に察知します。文部科学省の令和5年度「家庭教育支援推進のための調査研究」によると家庭教育の悩みの第一位は「子どもの行動、気持ちかわからない」（45.1%）でした。小さな頃から、子どもの表情やふるまいを察知し、気持ちや様子を思いやっているとこうした悩みの解消につながりやすいのではないのでしょうか。この体操教室は、そういう意味でもとても意義深いものです。